

Nutrition Support Times



嚥下チーム活動紹介 —STの立場から—

昨年11月から新生嚥下チームがスタートしました。チームメンバーは、NST チェアマンの麻酔科東別府 Dr、神経内科葛谷 Dr、歯科口腔外科西田 Dr、管理栄養士3名、言語聴覚士3名、理学療法士1名、作業療法士1名に加えて、小林師長、堤主任をリーダーとする嚥下リンクナース26名(各病棟1名以上)の総勢37名です。活動としては、まず嚥下評価・訓練の手順、依頼方法、訓練の流れをシステム化しました。それに基づき週3回(月、水、金)の病棟嚥下回診、嚥下カンファレンス(毎月曜日)を開始しました。チームで評価することにより、嚥下機能はもとより栄養管理、姿勢保持、口腔ケアの状態、咀嚼機能の評価などがより専門的かつ総合的に行えるようになりました。その他、院内勉強会の開催、嚥下テストフードの導入(気管切開患者の嚥下評価に役立つすぐれもの)、増粘剤の比較検討、嚥下スコアの作成等をチームで取り組んでいます。

嚥下サポートチームの歴史紹介

当院における嚥下サポートチームは、実は今から11年前、1997年に結成されました。神経内科医師1名、歯科医師1名、看護師4名、管理栄養士2名、歯科衛生士2名、言語聴覚士(ST)1名から構成される、当時としては先進的な多職種によるチームアプローチを開始しました。その後、放射線科、栄養科の協力を得て嚥下造影検査(以下VF)の導入、嚥下開始食のオーダー対応も実現しました。またVFカンファレンスの実施、間接訓練の手引きの作成、勉強会の開催を通じて院内における嚥下障害に対する理解を深め、嚥下リハの充実を図ってきました。

嚥下障害への関心の高まり

活動開始当初は、嚥下評価・リハの依頼は、神経内科や脳神経外科の患者に限られていましたが、活動継続の効果か、その後心臓血管外科、循環器内科、呼吸器内科、外科等各科から依

頼が来るようになりました。VF検査依頼も増加の一途でした。ところがそんな中、昨年春に嚥下チームの中心メンバーであり、VF検査を担っていた神経内科医が退職することになりました。さあ大変、嚥下評価、嚥下訓練の依頼がSTに集中し始めました。2006年7月には35件であった月間摂食機能療案件数が2007年7月には250件に膨れ上がってしまいました。ST非常勤1名が増員になったものの、失語症などの高次脳機能障害に対する言語療法の件数も増加しており、依頼があっても対応しきれないケースが続出してきました。と同時に、嚥下障害に対するリハはSTが行う直接訓練、間接訓練だけでなく、全身管理、栄養管理、口腔衛生、ポジショニング等、嚥下に関わる全身の状態を整えることが如何に重要であるかをますます痛感していました。

NCM 講演会予定

月日	内容	担当
3/27	下痢について	東別府先生

NSTカンファレンス・回診
毎週水曜日 pm1:00~8北(861)
NST カンファレンスルーム

新嚥下チームのスタート

そんな状況をみかねてか「こんなことじゃあかん」と栄養科の有岡さん、NST 東別府先生が提案してくださり、新嚥下チーム発足が企画されたのです。神経内科葛谷先生、歯科西田先生も加わってくださり(自主的?強迫的?)、VF検査や義歯調整も継続可能となりました。小林師長、堤主任の協力の下、嚥下リンクナースの参加も軌道に乗せることができました。PTやOTへの参加要請もかいません。

さあよいよ嚥下回診のスタートです。摂食・嚥下障害へのアプローチはST単独でできるものではなく、病棟看護師や他部門のスタッフとの密な連携の上に初めて効果をあげるものです。24時間患者のそばにいる看護師さんたちの協力いかんによって大きな違いが生じるわけです。そこで

付録1 嚥下回診のメリット

1. 複数の目からなる総合的評価が可能である。
2. 栄養管理面からのアドバイスも同時にできる
3. 義歯の適応判断や調整についてコメントできる
4. 適切な姿勢の調整、保持がその場で工夫できる
5. 主治医や患者の担当看護師と直接情報交換ができ、嚥下評価の結果も共有できる



まず、院内各病棟で行っていただく嚥下評価の方法、手順を知っていただくために、という目的もこめて嚥下回診が始まりました。

今後の課題と展望

嚥下障害を抱えた患者さんたちの速やかな回復を促すことができるよう、基本的な嚥下評価・訓練の知識、技術の浸透とさらなる向上を図っていくことがまず第一ですが、その他、診断技術の向上のためには、VF検査、嚥下内視鏡検査(VE検査)の充実が欠かせません。VFについては放射線科の皆様の協力を得て、さらに精度を上げていきたいと望んでいます。VEに関しては、耳鼻科の先生方の協力を得て施行の具体化が進んでいます。

新嚥下チーム発足から半年。さらなる進化を遂げるために皆様のご協力をよろしく願っています。

付録2 嚥下回診の実際

日時:月曜、水曜、金曜、17:00開始。

参加者:医師1名、看護師(嚥下リンクナース)1~2名、管理栄養士2~3名、PTまたはOT1名、言語聴覚士2~3名

回診担当患者:当日昼までに依頼があり、嚥下評価の適応のある患者1~3名(3名上限)

内容:嚥下評価と今後の方針決定(必要であれば再評価)

付録3 嚥下回診の依頼方法

(詳細はWEBMINKの摂食嚥下障害サポートチームの中の摂食嚥下障害フローチャートに記載)

まず病棟で摂食・嚥下機能評価訓練計画表を使って評価し、必要があれば、NST依頼用紙に記入(嚥下障害にチェック)して言語療法室へ提出。同時にすでに評価した摂食・嚥下機能評価訓練計画表と摂食嚥下サポート依頼表、摂食嚥下障害患者調査表を記入し病棟で保管しておいてください。依頼を受けた直近の月・水・金曜に回診します。担当看護師または病棟看護師さんがどなたか一緒についてください。できれば主治医の参加もお願いします。